

しんぢつに神の心のせきこ
みわ しんのはしらははやく
いれたい (三 8)

このはしらはやくいれよと
をもへども にごりの水でと
ころわからん (三 9)

この水をはやくすまするも
よふだて すいのとすなにか
けてすませよ (三 10)

このすいのごにあるやと
をもうなよ むねとくちと
がすなとすいのや (三 11)

このはなしすみやかさとり
ついたなら そのまゝいれる
しんのはしらを (三 12)

はしらさいしいかりいれた
事ならば このよたしかにを
さまりがつく (三 13)

とあります。親神様の心の急
き込みは、おつとめの完成に
向かう為に、かんろだいを据
え、更には、道の中心である
真柱様を据えたいと思われま
す。しかし、濁りの水で、据
えることが出来ない、この
濁った水とは、人間の心の有
り方と思われれます。しかし、
水を澄ます道具として、人間
の胸と口が、砂と水囊である
と仰せになっており、これは、
悟りと諭しと仰せられており
ます。このように考えさせて

頂きますと、親神様の思召、
教祖の教えを疑うことなく信
じる、仮に悟ることが出来た
ならば、その教えを人々に伝
える行いが、私たち人間が心
を澄ますことに繋がると考え
られます。真柱様は、道の芯
であり柱であります。私たち
よふぼくお互いが、教祖の御
教えを信じ切り、その思いを
人に伝え、おたすけに励むと
ころに、親神様の思召である
たすけ一条の思いに添わせて
頂けると思うのであります。

そして現在コロナ禍において
世界規模で活動が止まってい
る状態です。お道においては、
教会参拝の自粛であり、布教
活動の自粛であります。しか
し、お道の歴史を紐解きます
と、教祖御在世当時のように、
官憲の干渉や、迫害、明治29
年に見る内務省訓令、また、
第2次世界大戦時の革新時代
と、おつとめを止められてい
るわけでも、教えを止められ
ているわけでもありません。
先程申し上げたように、親神
様の思召を信じ、教祖の御教
えを疑うことなく実行に移す
ことが、今、お見せ頂いてい
る節を乗り越えさせて頂くも

のと信じて疑わないのであり
ます。

8月27日には、表統領先生
よりこれからのお道の通り方
をお示し頂きました。私たち
は、たすけ一条の心を定め、
お道の上につとめさせて頂き
たいと思ひます。

昇殿参拝

11月26日、秋空の澄んだ空
気の中、6名の教会長が昇殿
参拝をさせて頂いた。



女満別分教会 創立百周年記念祭

11月1日(日)女満別分教会に
おいて、大教会長夫人がご臨
席され、創立100周年記念祭が
つとめられた。

おつとめの後、大教会長夫
人が大教会長のお言葉を代読
され、おつとめをつとめるこ
との大切さと、おつとめに
よって御守護を頂けるありが
たさをお話し下された。その
後、記念撮影をし、お弁当を
配布して終了した。

〈女満別分教会略歴〉

- ・大正10年1月27日設立
- ・初代伊藤嘉六、二代伊藤忠雄、三代三幣正志(現在)

神殿大掃除

大教会の神殿・参拝場周辺
の大掃除が、10月と11月の
2ヶ月間に分けて行われた。

10月13日に参拝場と回廊、
11月13日に神殿をさせて頂き、
1年のすすを払い、壁や柱、
障子戸の雑巾掛けなどさせて頂
いた。コロナ禍で例年より
ひのきしんの手が少なかった
が、勇んでさせて頂いた。

